

Innovative Technologies 2016 採択者一覧及び実用化技術大賞

1. Innovative Technologies2016 採択者一覧

<登録順にて記載> 上段:採択技術名 下段:採択者名

技術の詳細についてはデジタルコンテンツEXPO2016公式ウェブサイト内のページ

(http://www.dcxexpo.jp/exhibition_index)よりご確認ください。

T01	Luminescent Tentacles
	金沢美術工芸大学 美術工芸学部 中安研究室
T02	fVisiOn: 全周 360 度から観察可能なテーブル型メガネなし 3D ディスプレイ
	国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所
T03	自律型ロボットを用いたリアルタイム戦略ゲームシステム「CODE HORIZON」
	株式会社ミラ
T04	Qoncept 4D Tracker
	株式会社コンセプト / データスタジアム株式会社
T05	ホログラフィックウィスパー
	ピクシーダストテクノロジーズ
T06	TABO
	touch.plus / 株式会社バスキュール / プログレステクノロジーズ株式会社
T07	8K Time into Space
	NHK / MIT Media Lab
T08	PanoPlaza Movie/Live
	カディンチェ株式会社
T09	フィジタルフィールド
	東京大学 苗村研究室
T10	HapTONE
	電気通信大学 情報理工学研究科 情報学専攻 梶本研究室

<登録順にて記載> 上段：採択技術名 下段：採択者名

T11	Cross-Field Haptics : 多重場による触覚提示
	筑波大学 デジタルネイチャー研究室
T12	8K:VR シアター
	NHK メディアテクノロジー / NHK エンタープライズ
T13	失禁体験装置
	電気通信大学 ロボメカ工房 VR 部隊失禁研究会
T14	女子高生 AI りんな
	日本マイクロソフト株式会社
T15	ショートショート of 自動生成の試み
	きまぐれ人工知能プロジェクト 作家ですよ
T16	Unlimited Corridor
	東京大学 大学院情報理工学系研究科 廣瀬・谷川・鳴海研究室 / ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同会社
T17	AI による白黒写真の自動色付けシステム
	早稲田大学 基幹理工学部 石川研究室
T18	編隊飛行ドローンとオーディオビジュアルテクノロジー
	Sky Magic (スカイマジック)
T19	モバイル型ロボット電話 ロボホン
	シャープ株式会社
T20	MotionScore
	株式会社電通

「Innovative Technologies 実用化技術大賞」受賞技術

「Innovative Technologies 実用化技術大賞」の対象技術 82 件についてアンケートによる実用化進捗調査を実施し、その結果をもとに厳正な審査を行い、以下のように決定しました。

【金賞】 Project Morpheus (Innovative Technologies 2014)
株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント



講評：

2016 年 10 月の PlayStation®VR の発売に向けて、2014 年の採択後もトラッキング精度の向上や視野角の拡大など技術面の改良に取り組みながら、世界中のパートナーとコンテンツタイトルの充実をはかるなど、技術とコンテンツを連携させた取り組みが評価でき、大きな市場創出に向けた期待感が感じられる。

【銀賞】 WHILL (Innovative Technologies 2014/特別賞 Human)
WHILL 株式会社



講評：

電動車椅子や福祉用具の取り扱いのない店舗での新たな販売網の構築や介護保険を利用したレンタル品への採用、米国食品医薬品局 (Food and Drug Administration, FDA) の認可取得、伊勢志摩サミットでのデモンストレーションなど、国際市場に向けた活発な取り組みが評価できる。今後は福祉機器としてだけでなく、公道走行可能なパーソナルモビリティとしての進化にも期待がかかる。

【銅賞】 AgIC 回路プリンタ （Innovative Technologies 2014／特別賞 Ecology）

東京大学 情報理工学系研究科／AgIC 株式会社



講評：

導電性銀ナノインクを消す技術や B0 サイズの大判印刷技術の開発、学習教材としての販売、接着剤メーカーとの連携による布地等への電子部品の自由な取り付けの実現、印刷による厚さ約 0.1mm の床暖房シートなど、特定の分野にとらわれず、独創的な技術を活かすことのできる産業分野に果敢に挑戦し、成果を挙げている点が評価できる。

【銅賞】 FOVE - 視線追跡型仮想現実 HMD （Innovative Technologies 2015／ACM SIGGRAPH Special Prize）

株式会社 FOVE



講評：

日本及び韓国で約 7,000 店舗のインターネットカフェを展開する事業者と提携し、月間 2,500 万人ユーザーにアプローチできるプラットフォームを構築したことに加え、開発者向け SDK の公開、1100 万ドル（12.3 億円）の資金調達など、2015 年 6 月の試作機完成から 2016 年秋の本販売までのわずか 1 年余りでのスピード感のある取り組みが評価できる。